

第二次選定の検討対象種一覧 昆虫類等陸生節足動物(案)

*要:要注意リスト掲載種、日本生態学会7-スト100 IUCN7-スト100

和名	学名	*	文献等で指摘されている 影響の内容	摘要
----	----	---	----------------------	----

○第二次の特定外来生物の選定作業が必要と考えられる外来生物

コカミアリ	<i>Wasmannia auropunctata</i>		生態系(競合・駆逐・捕食)、人の生命、身体に係る被害	高い採餌能力と攻撃性による他種のアリとの競合・駆逐、捕食等による他の動物への影響が海外で知られている。
アシナガキアリ	<i>Anoplolepis gracilipes</i>		生態系(競合・駆逐・捕食)	高い採餌能力と攻撃性による他種のアリとの競合・駆逐、捕食等による他の動物への影響が海外で知られている。すでに南西諸島に定着。
ツヤオオスアリ	<i>Pheidole megacephala</i>		生態系(競合・駆逐・捕食)	高い採餌能力と攻撃性による他種のアリとの競合・駆逐、捕食等による他の動物への影響が海外で知られている。すでに南西諸島に定着。
テナガコガネ類	<i>Cheirotonus</i> spp.		生態系(競合・遺伝的攪乱)	愛玩用として、輸入、飼育され、主にインターネット上などで取引が行われている。在来種ヤンバルテナゴコガネとの競合や遺伝的攪乱が懸念される。

○関係者に利用に当たっての注意を呼びかけるとともに、被害に係る知見等の情報の集積を図る必要がある外来生物

チャイロネットタイスハチ	<i>Delta pyrifome</i>		生態系(競合・駆逐・捕食)	大型の捕食者で小笠原で普通種となっており、在来の昆虫(特にチョウ目)への影響が懸念されるが、実態は不明。
ナノヨチビアシナガハチ	<i>Ropalinda marginata</i>		生態系(競合・駆逐・捕食)	硫黄島では普通種で、捕食による在来昆虫への影響が懸念されるが、実態は不明。小笠原への侵入が懸念される。
クワガタムシ科	Lucanidae	要	生態系(競合・駆逐、遺伝的攪乱)	大量の個体が愛玩用に輸入・販売され、一般家庭にも浸透しており、低年齢層の飼育者も多い。野外での逸出個体の発見があり、遺伝的攪乱も懸念されるが、実証的データは不足している。

○選定の対象とならないが、放蝶行為への注意喚起が必要な外来生物

ホリオチョウ	<i>Seriginus montela</i>	要	生態系(競合)	ジャコウアゲルとの競合が懸念されている。放蝶に由来すると考えられる分布拡大が見られるため、これらの行為を防ぐ普及啓発が必要。
アカホシゴマダラ	<i>Hestina assimilis</i> (在来 <i>H. a. shirakii</i> を除く)	要	生態系(競合)	ゴマダラチョウとの競合が懸念されている。 <i>Hestina assimilis shirakii</i> が奄美大島に在来で分布するが、神奈川県などで分布を拡大中の種は国外産の亜種である。放蝶行為を防ぐための普及啓発が重要。